

教授

神崎 明坤

■ 学歴

1. 黒竜江大学 日本語学部 学士
九州大学大学院 教育研究科 修士課程
九州大学大学院 比較社会文化研究院 博士課程 満期修了

■ 学位

1. 教育学修士 九州大学 1995 年

■ 研究分野

1. 国際比較教育・国際比較社会文化
2. 大学キャリア教育
- 3.

■ 研究キーワード

1. 比較社会文化教育、異文化コミュニケーション
2. 女子大学生の社会人基礎力の育成
- 3.

■ 研究課題

1. 中日の近代における思想家の道德修養に関する研究
2. 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究
3. 中日における大学の改革に関する比較研究

■ 担当授業科目

1. 入門中国語会話（前期）
2. 初級中国語会話（後期）
3. 中級中国語（前期）
4. 実用中国語会話（前期）
5. 基礎中国語（前期）
6. 応用日本語（後期）
7. 中国語通訳ガイド演習（前期）
8. 初年次セミナー I（前期）
9. アジア文化交流研修 A（前期）
10. 比較文化論（前期）
11. 専門演習 I（前期）・専門演習 II（後期）
12. 卒業研究（通年）

13. キリスト教と西南女学院のあゆみ (1 コーマ) (前期)
14. 人文学入門 (1 コーマ) (前期)

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【入門中国語会話・初級中国語会話・実用中国語会話・中級中国語・基礎中国語・中国語通訳ガイド演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組み合わせることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国文化や中国の大学生の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等、学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3. 講義内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引き出す工夫を行った (検定試験は半年の勉強で4級、1年間で3級合格者出た)。 4. 毎回講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度に纏めて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。「初級中国語会話」「実用中国語会話」「中級中国語」「基礎中国語」「中国語通訳ガイド演習」の授業は中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
2.	<p>授業科目名【初年次セミナー I】</p> <p>本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び、一生の知的財産とする。論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる受講マナーが身につけている。新聞や本を読む習慣が身につけている。規則正しい大学生生活習慣を見つけることが本授業の旨である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義にテレビ、DVDなどの補助教材の活用、疑問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を向上させ、積極的な授業参加することに工夫を行った。 2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等、学生の能力に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。更に学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。
3.	<p>授業科目名【専門演習 I・II】</p> <p>グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。例えば、米やお茶等の食文化、漢字や儒教の思想もちろんのこと、年中行事、ものの考え方等の伝来文化によって形成された文化や習慣等の現代の日本の文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことが本授業の旨である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすく日本と中国の文化に関する論文を多数読んでもらい、その文化の相違点の比較研究などを通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。

	<p>2. 日本と中国及びヨーロッパ文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら、各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。</p> <p>3. 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えを纏め、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。</p>
4.	<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。</p> <p>1. 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。</p> <p>2. 先行研究を批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うために、ゼミ同士や指導教員との交流を通し、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。</p> <p>3. 仮説を論文として展開する力等を養い、学生自身のオリジナルな論文を書くことを心掛けて、最終的に集大成の論文を完成させる工夫を行った。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
2.	九州教育学会	会員	1994年4月～現在に至る
3.	日本比較文化学会	会員	2011年4月～現在に至る
4.	日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
5.	日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2023年7月	大学における社会人基礎力育成の考察—女子大学と地方自治体の連	共著	日本比較文化学会、比較文化研究 No.152	社会人基礎力を育成するにあたって、大学においてどのような取り組みをすればよいのだろうか。社会人基礎力の育成方法については、学生と企業の協働による商品開発・サービス事業の企画運営などの活動結果から、その活動についての

		携活動を事例として一			振り返りや自己評価・他者評価、有識者による指導が重要であるとされる。しかし、これらの活動における指導方法は、それぞれの教育機関や指導者の力量に委ねられるケースが多く、また、社会人基礎力の育成プロセスや系統的な支援方法、評価システムも確立されているとはいえないと思われる。 本稿では、大学での学びと実社会での学びとを融合させた、実践指向型の問題解決型学習による地方自治体との地域連携活動の事例を通して、社会人基礎力の育成について考察する。
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	日本と中国における大学キャリア教育に関する研究—女子大学生の社会人基礎力の育成を中心にして—	西南女学院大学	○神崎明坤、高橋幸夫、塚本美紀	960,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年11月23日	女性活躍ワーキンググループ 中国茶セミナー 2023	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020年4月1日～2024年3月 31日	観光文化学科	観光文化学科科長
2.	2022年4月1日～2024年3月 31日	宗教関連会議	宗教主事補
3.	2022年4月1日～2023年3月 31日	人文学部宗教委員会	人文学部宗教委員